

檀原市立図書館だより

平成22年3月1日発行
第19号

檀の樹

目次:

図書館ボランティア
2、3

学校長にきく
4

生涯学習とともに
5

図書館員の本棚
6

お知らせその他
7、8



図書館ボランティア（1）

「図書館がどのような形態で運営されるのかということが、自治体の実力を測るバロメーターのひとつになると思います」



みつはた ふみお
光畑 文夫 さん

檀原市在住。平成19年9月より檀原市図書館ボランティアの会会員。平成21年4月より同会会長。「修理班」「おはなし班」として活動中。

平成19年9月、「檀原市図書館ボランティアの会」が発足しました。現在18名の檀原市民の方々が「おはなし班」と「修理班」に分かれて活動中です。その中のお二人に、お話をうかがいました。

- 光畑さんには「檀原市図書館ボランティアの会」発足当初からご参加いただいています。また現在は会長も引き受けていただいています。ボランティア活動（*1）に参加しようとした動機をうかがいたいのですが。
- 正直に申しますとね、老化封じなんです。（笑）妻の健康状態が思わしくないので、毎日、昼食は僕が作ることにしています。一緒にお昼を食べて、その後、日課にしている書道にとりかかるとはありますが、集中力が持続するのは、1時間半が限度ですね。その後、読書を1、2時間すると手持ち無沙汰になり、夕方まですることがないことがあります。何もしないでボーっとしていると、物忘れがひどくなってしまいます。（笑）
- 活動に対して、図書館からは交通費や謝礼は一切お出ししていません。規則として、おはなし室や作業室ではお茶さえお出しできない。見返りという意味でのメリットは皆無と云ってよい中で、ご自身でバス代を負担いただきながら、破本の修理や絵本の読み聞かせのために図書館に通っていただけるのは、なぜでしょう。
- 大阪市で教職員として働いてきて、定年を迎えました。その時に、「自分は地元にはあまり貢献できなかったな」という想いがよぎったのです。自身が暮らしている地域のために「過去の経験を活かして何かお手伝いしたいな」と思いました。個人的な達成感や充足感が得られれば、メリットは必要ないのではと思っています。
- 作業室内では図書館関係者という位置付けですが、図書館ボランティアとしてだけでなく、図書館利用者として、あるいは市民としての立場から見た場合、おっしゃりたいことなどありませんか。
- 教職で一緒だった仲間とも話すのですが、近年、公共施設の「指定管理者制度」（*2）の問題がありますね。財政効率を考えた運用、より行き届いたサービスという点で議論になるのですが、図書館についてはどうなのだろう。うまく馴染むものなのかどうか……。流行語の勢いのようなものだけで事態が推移してゆくとしたら、「あまり好ましくないのでは」とは感じます。効率と充実は、並行して図られるべきではないでしょうか。
- 図書館法等における諸規定や「図書館無料の原則」など、他の公共施設とは立脚の土壌が異なるのではという見解は、行政や文教の関係者からしばしば聞かれます。そのためか、制度移行した館も少数です。
- 一部業務の委託化、ボランティアや各団体との協働など、効率化や充実化に向けて図書館自身が先ず努力することが求められるのではないのでしょうか。その上で、図書館がどのような形態で運営されるのかということが、財政力や政策力といったその自治体の実力を測るバロメータのひとつになってくると思います。議論や検証が十分になされることを望みたいです。あと、もう少し新刊書の蔵書が増えてくれれば、とは思いますが。ただ、大阪市立や大阪府立といった大都市圏の図書館を、僕は見慣れてしまっている側面があるので、そうしたところと、規模や立地やニーズが異なるこの図書館を単純比較するのは、少し酷なような気がします。（笑）

図書館ボランティア（2）

「わたしたちの若い頃は、本を読みたくても読むことができませんでした」



こじま ふさこ
小島 富佐子 さん

檀原市在住。平成 19 年 9 月より檀原市図書館ボランティアの会会員。同会の修理班として活動中。

- 図書館ボランティアに参加いただく以前に、どのように過ごされてきたのか、読書や図書館との関わりも含めて、教えていただけませんか。
- 10年ほど前から、独居老人の相談相手を務める電話ボランティアに参加しています。2年前まで大阪にある会計事務所に勤めておりましたが、所長さんが事務所を閉じることを決められて、そちらを退職したこともあって、自由になる時間ができました。
- それで、図書館ボランティアにご参加いただいたのですね。すでに別のボランティア活動もあるのに、図書館との両立は大変ではありませんか。
- 私のような年齢になると、これから新しいことを始めるのは、もう負担なのですね。本当は絵本の読み聞かせにも挑戦したいのですが、選書の知識や朗読法など、限界を感じてしまったというのが正直な話です。でも、本が好きだという気持ちは本当だし、自分にもできることで、ささやかでもお役にたてればと……。
- 本について、特別な気持ちをお持ちですか。
- 私たちの若い頃には、本を読みたくても読むことができませんでしたから。戦後の混乱があって、食べてゆくのに精一杯で、生活のために懸命に働かなければいけない状況が長く続いて……。物資も乏しく、本はある意味で贅沢品でした。仮に手元にあったとしても、読むための環境や時間が十分になかった……。それを思うと、今の若いひとは本当に恵まれていると思います。図書館にも書店にも、本が豊富に揃っていて——。こうして壊れた本を手にとって眺めますでしょう。修理が目的で来ているのですから、もちろんサボって読んだりはしませんよ。（笑）でも、ちょっとページをめくってみたり、表紙に見入ったり、そんなことがけっこう楽しかったりするので。「あっ、この絵本いいなァ」というのに出会うと、メモにとって帰って、書店で同じものを求めて、知り合いの子どもさんに贈ったり……。まだ、2、3歳の子どもさんですから、自力では読めないでしょうけどね。
- 小島さんのお話は、ブックスタートの原形のようなものを連想させます。
- 専門的なことは解りませんが、本が好きだということと、子どもたちにも本を読んでもらえたらということと、両方の気持ちがあるのです。私自身、本が読みたくても読めなかったという経験をしたから、余計にその想いが深まったのかもしれませんが。子どもたちすべてが皆そうではありませんが、本よりは、パソコンゲームの方が好きだったりするでしょう。「本って良いものなのに……」と残念に思います。
- そうしたお気持ちや経験が、小島さんの原動力になっているのですね。
- 電話の活動で、私よりも年長の方と話しますでしょう。相談に乗っているつもりが、逆に人生の先輩から様々なことを教えられたりしているのです。ひととのふれあいを通じて、その中には図書館での活動も含まれるのですが、私自身が心豊かになってゆけたらと願っています。

学校長にきく

「健康で、心豊かに、たくましく
……」



松村 恵由（まつむら しげよし）

平成18年4月より檀原中学校校長。
檀原市子ども読書活動推進委員。

檀原市子ども読書活動推進計画における学校教育の取組状況や教育職としての長年の実務経験、子どもたちの「育ち」や「学び」と読書について、お話をうかがいました。

- 学校長として中学生のみなさんを見守ってこられました。子どもたちの読書離れと言われますが、本当にそういった現象が起きているのでしょうか。以前の教室の様子と比較して、お気付きの点などありませんか。
- 児童・生徒を取り巻く環境が大きく変化してきたことが「読書離れ」と言われる現象を引き起こしているのかもしれない。環境の変化として先ず一点目に挙げられるのが、携帯電話とインターネットの普及でしょう。以前は、調べ事があると、百科事典や参考図書を自身で手間をかけて実際に開いてみるというのがほとんどでした。ところが現在では、ネット検索で簡単に調べられますし、プリントアウトも手軽にできます。利便性に優れたパソコンなどのIT機器に頼ることが増加しているのではないのでしょうか。二点目は、子どもたちの時間の過ごし方が変化してきたことです。「よく学び、よく遊べ」ということが難しくなりつつあるのかもしれない。「良く学ぶ」のためには、「遊び」＝（良い意味での余裕）が必要なのでしょうが、校内の様子を見てみると、放課後は部活動、さらに帰宅したら今度は塾通いという生徒が多いように思われます。中学生といえども日々忙しく過ごしていて、本を読むための時間的な余裕を見つけることが難しいのが現実のようです。
- そうした中で、子どもたちの読書へのきっかけづくりのひとつとして、朝の読書タイムなどの取り組みも行われています。
- 本校では、毎朝10分間の「朝読書」を実施しています。限られた時間の中で、生徒たちは、自身が選んだ本を読むことに集中します。時には物足りなく感じることもあるのか、授業間の休憩時に本を開く姿を見かけることも多くなりました。今後も継続して取り組んでゆけたらと考えています。
- 当市では、社会学習の一環として「職場体験」がおこなわれています。図書館にも、市立の各中学校から生徒さんが参加されます。
- 職場体験で図書館を自ら希望する生徒は、やはり読書が好きな生徒が多いですね。（笑）図書館に限ったことではないのですが、職場を実際に知見できることは、生徒にとって有意義なことなのです。挨拶や作業を通じて、社会人としての「ひと」との接し方などについて実体験ができますから。体験学習後の生徒は、どことなくキリリと引き締まった感じがするものです。様々なことを吸収して、「健康で、心豊かに、たくましく」今後の進路を選択するための判断材料を見つけてもらえればと願っています。
- 校長ご自身は、どのような小学生・中学生でいらっしゃいましたか。
- エジソンやキューリー夫人の伝記に熱中する「科学少年」でした。（笑）それと工作などの「ものづくり」が大変好きでしたね。少年時代のそうした興味や関心が、技術・家庭科の教師という、その後の私の歩みの進路にもつながっていったように思います。「一生勉強 一生青春」……、その傍らに本があれば、より素晴らしいと思います。

生涯学習とともに

「いつまでも青春の気持ち
で……」



森本 吉英（もりもと よしひで）

社会教育課長、教育総務課長を経て平成19年4月より当市教育委員会生涯学習部長（図書館担当）。
檀原市子ども読書活動推進委員
本年3月末、定年退職予定。

当館の開館以前より長年にわたって社会教育・生涯学習に関わってきた経験や実感の中から、図書館と読書についてお話をうかがいました。

- 長年、生涯学習や社会教育に携わってこられました。
- IT化とグローバル化が進んだこともあり、年齢を問わず人々の学ぶ意欲が高まっています。図書館も含めて、様々なニーズに適う生涯学習の場を提供に心がけてきました。今や65歳以上人口が全体の20%を超える超高齢社会の時代です。「団塊の世代」や高齢者の方に「いつまでも青春」の気持ちで、生涯学習に取り組んでいただければと願っています。年齢を問わず、生涯のどの時期にも学習できる機会が選択できること、そしてその成果が評価されるような生涯学習社会の構築が必要ではないでしょうか。
- 日祝日にイベントや催事の多いご担当です。公休日はどのように過ごされていますか。
- 最近、「土に触れる」楽しさに気が付きました。自給自足して新鮮な食材に恵まれるというメリットとは別に、野菜を育てて収穫する喜びそのものの中に、様々な楽しみや喜びがあるものです。
- 館内でも、時折お姿を見かけします。
- 農業や園芸に関する本や時代小説の作家の棚などで、やはり自然と足が止まってしまいますね。歴史小説や時代小説でも、織田信長や豊臣秀吉といった戦国時代の英雄を描いたものだけではなく、例えば上杉鷹山（*3）のように、不可能と思われた行財政の再建に諦めずに取り組んだ人物とか……。
- 上杉鷹山については、竜門冬二さんや藤沢周平さんなど、何人もの著作者が取り上げています。
- 「成せば成る 成さねば成らぬ何事も 成らぬは人の成さぬなりけり」——鷹山の有名な言葉がありますね。私などは子供のころ母からよく言い聞かされたものでした。戦国時代のリーダーのような華やかさには欠けても、苦境にある米沢藩と住民を救うために尽力した上杉鷹山は、藩祖上杉謙信とは違った意味で、優れたリーダーであったと思います。一方で、市井の人々の暮らしを活写したものにも興味があります。
- お好きな作家など、何人もおられる様子ですね。
- 以前に万葉ホール企画としてご講演いただいた山本一力さんは、その中のおひとりですね。フィクションである作品にも、著者の実際の経験や視点が反映されているはずですよ。同じ人間である読者として、学び取るべきことがらが数多く含まれていると思います。講演でも、山本先生は、母子家庭として育ったご自身の少年時代やサラリーマン時代のご経験、現在の暮らしぶりなども交えながら語られました。
- 子どもたちや、これから社会に巣立ってゆく若いひとたちに、おっしゃりたいことはありませんか。
- IT機器を介した娯楽が全盛ですが、子どもたちには屋外で体を動かすことにも親しんでほしいと思います。それと、個人の興味や学習の度合いに応じて、読書体験を育んでほしいと願っています。社会人になった後にも折に触れて読み返し、こころの支えや滋養になるような本と出逢ってほしいですね。

図書館員の本棚 (9)

「貧窮問答の歌」 山上 憶良 (万葉集巻五 八九二 所収)

下級官吏として生涯の大半を過ごした山上憶良は、万葉歌人としてのみではなく、能吏としても名を残した文官でした。憶良が活躍した時代を振り返ってみると、694年に当市に藤原京が創都され、701年には大宝律令が制定されました。さらに710年には平城京への遷都が実施され、古代国家としての体裁が整えられてゆきます。そうした中で、公文書作成や対外折衝に長じた人物として頭角をあらわしたのが憶良です。無位無官ながら遣唐使の一員に抜擢された実績やその後の歩みなどから判断して、研究者や著作者の中には、その出自を渡来系と推定している方もいます。

憶良にとっての重要なテーマは、人間の生死、肉親への情愛、貧、老、病苦などでした。万葉スターといえる額田王や山辺赤人のような華やぎや官能性には乏しいかわりに、朴訥で人間臭く、温かさが感じられます。

風交じり 雨降る夜の 雨交じり 雪降る夜は すべもなく 寒くしあれば
堅塩を 取りつつしろひ 糟湯酒 うちすすろひて しはぶかひ 鼻びしび
しに 然とあらぬ ひげ搔き撫でて …… 寒くしあれば ^{あさぶすま} 麻衾 引き被
り 布肩衣 ありのことごと ^{きそ} 着襲へども …… (*)

極寒の夜、老残の身である自分は、凍水をすすりながらチビリチビリと糟湯酒で暖を取るくらいしかない……。もともと、地方長官まで務めた憶良自身が、どうしようもないほど貧困に喘いでいたということではなさそうです。文脈には、心象の吐露が含まれているのではと空想してしまいます。憶良というひとは、あるいは清廉であったのかもしれませんが。そのために、凶らずも屈託を抱えてうめき声を漏らす夜も、あったのではないのでしょうか。しかし一方では、麻衾を頭からかぶり、布肩衣を重ね着しながら堅塩をなめて一杯やれる境遇は、当時では恵まれたものであったともいえそうです。

我よりも 貧しき人の 父母は 飢^こゑ寒^めゆらむ 妻^め子どもは 乞^こいて泣^なくら
む …… 伏^ふ廬^せの 曲^ま廬^げの内に 直^ひ土^たに 藁^わ解^たき敷^ききて 父母は 枕^{まくら}の方
に 妻^め子どもは 足^{あし}の方に 困^こみ居^いて 憂^さい吟^いひ かま^かま^まには 火^か気^き吹
き立^たてず 甑^{こしき}には 蜘蛛^{いひかし}の巢^ねかきて 飯^い炊^ひく こと^{こと}も忘^われて ……

地方勤務や下級官吏としての営みを介して、庶民の暮らしに通じていたからこそ、憶良は他の万葉歌人が見過ごした多くの喜怒哀楽に着眼することができたのでしょう。実務家としての功績が認められ、従五位下を賜わって貴族の末席に列せられた時、憶良はすでに五十代の半ばに差しかかっていました。権力闘争や政治性とは縁遠かった実直な人柄が想像されます。(へ)

* 上記「貧窮問答の歌」訓読文は、前 登志夫 著「万葉びとの歌ごろ」(日本放送出版協会)より抜粋させていただきました。

山上 憶良 (やまのうえのおくら)

660~733 (推定)

大和奈良時代の歌人。長歌、短歌、漢詩文などが万葉集に多数収録されている。

No

Image

「私の万葉集」
杉本 苑子 著
集英社文庫

No

Image

「万葉びとの歌ごろ」
前 登志夫 著
日本放送出版協会

No

Image

「檀原の万葉を歩く 万葉のふるさと “かしはら”」
中西 進 他 編
檀原市

ボランティア

活動に参加しませんか——

図書館ボランティア



4月から活動を始めていただく館内ボランティアを募集します。内容は、①傷んだ図書の修理と②乳幼児・児童への絵本等の読み聞かせです。現在18名の方が活動中です。

① 修理については、導入として図書館職員による指導があります。

②絵本等の読み聞かせについては、年に10回程度勉強会があります。

問い合わせ・申込み 電話またはカウンター

ブックスタートボランティア



1歳6ヶ月健診時に受診される親子に、「読み聞かせ」を行って赤ちゃん絵本をプレゼントする活動です。文庫やおはなしの会の方、図書館員と一緒にしませんか。

活動の場所 檀原市保健センター会議室
活動の日時 毎月2回程度(おおむね2時間)

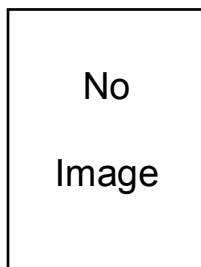
問い合わせ 電話連絡の上、来館ください。
詳細を説明させていただきます。

ブックリスト

P2～P5の話題に関連する所蔵図書です——

*1 ボランティア活動について

「参加して学ぶボランティア」
立田 慶裕 編
玉川大学出版部



ボランティアの広がりや深まりは、ボランティア活動からボランティア自身が自発的に学ぶことで実現されてきました。

*2 指定管理者制度について

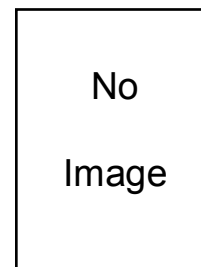
「変革の時代の公共図書館」
日本図書館情報学会研究委員会
勉誠出版



指定管理者制度を含む今日的な問題点について、多角的にまとめられています。

*3 上杉鷹山について

「まんが 上杉鷹山」
クニ・シロウ
総合労働研究所



鷹山の人柄と取り組みについて、具体的なエピソードを劇画化し、親しみやすく描いています。

檜原市立図書館

〒634-0075
檜原市小房町11-5

TEL:
0744-29-2121

FAX:
0744-21-1011

http:
[//www.ksh-lib.jp/](http://www.ksh-lib.jp/)

編集後記

図書館とモラル

今日、図書館は公に広く開放されている。ほとんどすべての公立図書館には閲覧の制限がない。市民の「知る権利」を保障する機関のひとつとして、社会的な役割を担っているからだ。だがかつて、図書館は限られた人々のものだった。教会や大学、王侯貴族といった特権階級のみが、その恩恵に浴することができた。▼図書館が発達した主要な場のひとつは米国だった。独立以前、海外の植民地では、出自や境遇がばらばらな人々を建国の理念に収斂する有効な手段が「言論」だった。建国の指導者、B. フランクリンの功績のひとつは、図書館会社の設立とされる。それは、会員制図書館を経て公費が投入される公共図書館へと発達した。▼奴隷制や人種差別といった負の側面を抱えながらも、米国が民主主義の先達であり続けたことと、公共図書館を発達させた背景は、無関係ではない。そしてそのことが、ついにはアフリカ系初の大統領をも出現させたのだが、今や図書館を巡る人々の心情も一様ではない。▼図書館は、人々のモラルを前提に成立する。それが損なわれる時、図書館も変容する。もしも防犯カメラや磁気ゲートを設置する必要がなく、そのための費用や作業を蔵書の形成やサービスの向上に充てられたら、どんなに素晴らしいだろう。先日、あろうことか体の一部を露出させる事案まで当館で起こった。残念で言葉もない。(館長)



辻本 香祥 作品展
(春の息吹 作品展示の部)

「木目込み人形」と「ちりめん細工」に季節感を盛り込んだ作品展示です。また、同テーマで図書資料も併設展示しています。下記の4冊はその抜粋です。

春の息吹

作品展示・資料展示 共催

場所 2F展示コーナー 展示中 3月30日(火)まで

No
Image

「絵本 ハルウララ」

那須田 稔 文 小坂 茂 絵
ひくもの出版

2004年3月22日、106回目のレースに武豊が騎乗して話題となった無冠の競走馬の物語です。

「ふるさとの歌がきこえる 季節の歌
春の小川はさらさらいくよ」

写真 前田 真三 前田 晃
P・I・E BOOKS

誰もが耳にしたことのある唱歌をテーマにしたフォトエッセイです。

No
Image

No
Image

「季語の食 春」

佐川 広治 著 不破 行雄 写真
TBSブリタニカ

ふき とう 露の臺 舌を逃げゆく にがさかな 虚子

季節の幸を、言葉でも味わってきた先人達の豊かな感受性が納められています。

「春には豆ごはんを炊く」

渡辺 有子 著
AC MOOK

こちらは、季節の美味を実際に舌で楽しむための指南書。えんどう、春にんじん、新キャベツなど、ありふれたものの中にある豊かさ――。

No
Image

表紙の写真

市立小学校と市立中学校では、学校図書館の整備に取り組んでいます。蔵書の形成と情報化のため、導入された端末機器を活用して、上級生の図書委員の皆さんが貸出を希望する下級生のために手続を行っています。